

## ホームゲレンデ

2025. 2. 5

この冬は、雪が降り出すのが早かった。12月中旬には、滑走可能なスキー場がいくつもあった。例年だと、雪がないスキー場開きのイメージがある。年末年始も、雪不足のため営業できないスキー場が多かった。

以前、奥会津の小学校に勤めたことがある。その町には、りっぱなスキー場があった。そこで、毎年、スキー教室を行っていた。しかし、雪が足りないため、1月中旬まで滑れないシーズンがあった。その影響で、そのスキー場で開催されるはずだった県中体連スキー大会が、やむなく会場変更となった。

この冬、福島に積雪があったのは、12月23日だった。その日は、2学期の終業式の日だった。2学期の最終日に雪が積もってしまった。いつもよりも早く幼稚園に向かった。駐車場に着くと、すでに小学校の技能主査の方が、除雪機を使って作業を始めていた。

こんなに早く積もるとは思っていなかった。毎年のごとく、雪が積もるのは年が明けてからだらうと高をくくっていた。今シーズンは違った。除雪道具がどこにあるかも、まだ確認していなかった。とりあえず、スノースコップを見つけ、慌てて除雪作業を始めた。幼稚園に除雪機はない。人力である。思いの外、積もっている。本格的な雪かきとなった。

12月中には雪は積もらない。それが例年のことだと思っていた。この例年という考え方方が間違っているのかもしれない。天候や気象に関しては、もはや例年などないのだろう。異常気象という言葉がある。徐々に使われなくなっているように思う。毎年のように異常が続くと、異常が通常となる。したがって、例年などなくなってしまう。

昔は、12月になれば、雪は降っていた。ホワイトクリスマスという言葉もある。昔というのは、だいぶ昔である。冬本番となると、子どもの腰の高さぐらいまで雪が積もった。積雪50センチということもあった。いくら雪が降っても、休校になることはなかった。午前中で授業を打ち切り、集団下校という日があった。ズボズボと雪にまみれながら家に帰った。

あの頃に比べれば、雪は少なくなっている。スキーブームが去って久しい。そのうえ、毎年のように雪不足が続くため、スキー場の来場者が減っている。営業をやめるスキー場も出てきている。あづま（高湯）スキー場、栗子国際スキー場、そして箕輪スキー場と、ホームゲレンデがなくなっていく。米沢スキー場しか残っていない。何度か出かけた南会津にある4つのスキー場のうち2つがなくなるという。さびしい。

今シーズンのように、早くからゲレンデにスキーヤーがシュプールを描く冬は、これからもそう多くは訪れないだろう。どうやら、多くのスキー場は、岐路を迎えている。